

第3章『いつかくる引退の日にどう向き合うか？』 ～一時間でできる「事業承継計画」から スタートしよう～

大阪府事業承継・引継ぎ支援センター
統括責任者 兼田 亜貴



「事業承継について考えないといけない、準備をしないといけないのは分かっているけど、多忙でねえ…」このような社長はとても多いのです。一方、「息子だから、いずれ継ぐことになるんだろうけど、社長（父親）はどう考えているか不安」という後継者も多いのも事実。

そんな経営者の方へお薦めしたいのが『事業承継計画』の作成です。事業承継計画とは経営計画（売上・利益等）に事業承継でやるべき事項を盛り込んだ長期（5-10年）計画書の事で、実は、紙とペンと付箋だけを準備すれば、なんと一時間で出来てしまうんです。作り方は、社長と後継者のそれぞれの年齢、仮決めした「社長交代の日」を書き入れます。

そこから、逆算した「後継者教育（社内・社外）」「周囲の理解確保」「株式の（段階的）譲渡」などの項目を付箋でペタペタと貼っていく簡単作業。「〇年までには専務に」「×年までには海外出張させたい」「社長交代時に過半数の株式を後継者に渡す」など、思いつくままに付箋をペタペタと楽しみながら作成していきましょう。この作業、活用例は、①後継者と一緒に作成し、互いの意思疎通に活用②意中の後継者がいる場合は、「こんな計画で考えていますが後継者となってください」というラブレター（意向表明書）として活用③後継者未定の場合は、候補者の選定のタイムリミット（無理なら、M&Aや廃業を検討）の確認ツールとする、など様々。事業承継は、社長が最後に行く最も重要な仕事。その日を晴れ晴れと迎え、第二の人生を謳歌するためにも有効な「事業承継計画」。大阪府事業承継・引継ぎ支援センターにて無料の策定支援を行っています。ぜひご活用ください。

